

御 挨拶

広島市立広島特別支援学校、平成28年度研究紀要を御覧いただき誠にありがとうございます。本校の教職員を代表いたしまして、御挨拶申し上げます。

今年度、本校は、平成28年11月2日、第57回広島県特別支援教育研究大会広島大会並びに平成28年度広島県特別支援教育校長研修大会の第1分科会において、本校の小学部第2学年が「日常生活の指導」の授業を公開し、研究発表をさせていただきました。この大会の大会主題は、「一人一人の教育的ニーズに応え、生きる力をはぐくむ特別支援教育の充実～汎化を意識した取組～」です。児童が自立と社会参加に向けて、自分から関わりを求めることや自分から考えて行動する姿を目指して、支援ツールの活用や児童の役割について環境づくりを行い実践してきたことを発表しました。本校のこれまでの研究を踏まえた取組でした。

また、平成28年11月30日には、公開授業研究会を行いました。昨年度までの研究の成果と課題を踏まえ、本年度から3年間の研究主題を、『自立と社会参加を目指した「わかる」、「できる」、「かかわりあう」を大切にしたい授業づくり』としました。一年次である本年度の副題は、『「わかる」、「できる」日常生活における指導』です。平成25年度から本校が取り組んできた「環境づくり」の四つの視点をもって日常生活における指導を行っています。「環境づくり」の環境には、「物理的支援環境」と「人的支援環境」があると思いました。「物理的支援環境」では、次の二つの視点です。①教材・教具、支援ツールの効果的配置 ②児童生徒の発達段階や障害特性に合った支援ツールの活用 です。「人的支援環境」では次の二つの視点があります。③教師の役割 ④児童生徒の役割 です。

ところで、「環境づくり」とは何をすることなのでしょう。「環境づくり」とは、支援環境を整える取組のことです。また、「支援環境」とは、児童生徒が主体的に活動するための環境全体のことと考えました。児童生徒が、「わかる」、「できる」ためには、環境づくりが重要なのです。特に、教師自らが「環境」だということを認識していることが大切だと思います。実態把握(チェックシート)、課題設定(チェックシート)、授業実践(授業づくりシート、環境づくり)の授業づくりサイクルを形成しながら検証しています。

本校の児童生徒の自立と社会参加に向けた取組は、授業づくりです。授業で身に付けた力は、社会で生活するために生かされなければなりません。日常の生活における基本的行動の確立に向けた児童生徒の意識化を図っていくことが求められます。本校の教育実践が児童生徒の幸せに繋がり、本市の特別支援教育の充実・発展の一助になればと考えています。今後とも、全教職員が一体となって取り組んでまいります。本校の取組を御覧いただき、御忌憚のない御批正を賜れば幸いです。

結びとなりましたが、本年度の本校の研究推進に当たり、懇切・丁寧な御指導・御助言を賜りました、兵庫教育大学大学院特別支援教育専攻障害科学コース教授 井澤信三先生、広島市教育委員会特別支援教育課主任指導主事 山領勲先生、同指導主事 山形恵美子先生、同指導主事 大久保誠先生、同指導主事 金本裕史先生、広島市教育センター主任指導主事 戸田美鈴先生、同指導主事 西田由香先生 に厚くお礼申し上げます御挨拶といたします。

平成29年3月吉日

広島市立広島特別支援学校長 中尾 秀行